

シンガポール便り 100

2016年11月25日 三好 隆志

シンガポール便り100号

とうとう100号に達しました。ここで、シンガポールについて振り返ってみます。シンガポールは東京23区くらいの面積、約550万人の人口（シンガポール人と永住者は390万人）です。人口密度は世界2位の7941（人/平方キロメートル）。これは336（人/平方キロメートル）の日本の約24倍です。国土全体が東京23区ということになります。狭い国土にたくさんの人が住んでいるため、住宅は高層マンションやHDB（公団住宅）になります。中心部では30～50階建て、郊外では20階建てくらいの高層住宅が立ち並んでいます。国民を、立体的に収容しているのです。人口の75%は中華系ですが、若者の多くは、中国語を話しません。彼らは、自分たちを「シンガポール人」と言い、「中国人」と呼ばれる事を嫌います。その他に、マレー系、インド系、そして海外の駐在員や肉体労働者がいます。一見理想的な「多民族国家」と思えるシンガポールですが、その現実には「階層社会」です。経済の中心は中華系が押さえ、マレー系やインド系の人たちの多くは単純な仕事に従事しています。空港の清掃員や警備員、スーパーのレジ打ちなどは、マレー系かインド系が多いようです。また、多くの建築現場で作業に従事するのは、インドやバングラデシュなどからの出稼ぎ労働者です。そして、彼らの豊かさが「外国人労働者」の低賃金の上に成り立っている事も注目すべきです。2013年のWHOの報告では、国民一人当たりの所得は約900万円。日本は450万円です。シンガポールは世界第2位で日本は17位、何と2倍の差があります。しかし、これは約15%の大金持ちが大きく平均を押し上げているのです。例えば、シンガポールの低所得者層になるバスの運転手の給料は10万円です。コンビニやレストランの時給は約600円です。また、インドなどから建築現場などに来ている出稼ぎ労働者や、フィリピンなどから来ているメイドさんの給料は月数万円です。つまり、シンガポールは日本よりもさらに格差が大きいと言えます。自由競争の社会でないと経済の発展が難しいですが、富めるものはさらに豊かに、そして貧しいものはさらに生活が苦しくなっていくということが、現代社会の課題になっているわけです。これを解決する政治の力を期待したいものです。



HAPPY DEEPAVALI!!

○ディーパバリとは？

10月29日にあるディーパバリは、10月末から11月初めの新月に行われるインドのお正月です。ディーパバリはサンスクリット語で、「ディーパ (deepa)」は光、「アバリ (avali)」は列の意味です。ヒンディー語が広く使われているインド北部では短くした「ディワリ (Diwali)」が一般的で、タミル語などが使われているシンガポールやインド南部では「ディーパバリ」と呼ばれるようです。この行事には色々な話が伝えられていますが、その1つにラーマ王子のお話があります。インドのアヨディヤという町に住んでいたラーマ王子は、あるきっかけで妻シータと国外のジャングルに追放されてしまいます。ある時、シータの美しさに目をつけた悪魔たちは、妻をさらいます。ラーマ王子は妻を取り戻すために悪魔たちと戦い、勝利しました。その後14年ぶりに国にもどったラーマ王子を、人々が火を灯して出迎えたことから、キャンドルやオイルランプで光の列を作って祝うようになりました。

きょう かみさま

○ヒンドゥー教の神様たち

さて、ディーパバリはヒンドゥー教の行事ですが、そのヒンドゥー教にはたくさんの神様がいることを知っていますか。ヒンドゥー教の世界観では、「ブラフマー」「ヴィシュヌ」「シヴァ」の三大神が世界を創造し、維持し、破壊をするとされています。そしてまた創造→維持→破壊を繰り返すと伝えられています。今回はこれらの3つの神様を紹介します。

ブラフマー



宇宙の創造の神とされています。創造と次の破壊の後の再創造を司っています。

ヴィシュヌ



世界維持の神とされています。世界を維持して、悪魔を滅ぼす神とされます。さらに魚や亀など10の姿に化けることができます。

シヴァ



破壊の神とされています。シヴァの破壊とは、次の創造を産み出すための破壊であり、「破壊と創造の神」ととらえることもできます。

ファイヤーウォーキングフェスティバル



ディーパバリの1週間前に行われるヒンズー教の祭り「Theemidhi (ティミティ)」は、別名「Fire Walking Festival (火渡りの祭り)」とも、よばれています。ティミティの起源は、叙事詩「Mahabharata (マハバーラタ)」。Queen Draupadi (女神ドラウパディ) が純潔を疑われ、それを証明するために、熱せられた灰の上をはだして歩いたという伝説が由来となっています。何千人ものヒンズー教徒が、信仰のために火渡りを行い、これにより神のご加護が受けられるといわれています。

場所：Sri Mariamman Temple (スリ・マリアマン寺院)

MRT チャイナタウン駅付近

シンガポール便り 98

2016年11月15日 三好 隆志

日・シンガポール外交関係樹立50周年記念行事

今年は、日本人学校創立50周年とともに、日・シンガポール外交関係樹立50周年の記念の年でした。そのロゴマークは、たくさんの応募から選ばれた右のようなものです。「50」を躍動感のあるタイポグラフィで表現し、外交関係の更なる進展をイメージさせています。さらに、両国の頭文字「S」と「J」を付し「SJ50」としています。両国が一目で分かるシンボル「シンガポール=マーライオン」「日本=富士山」を数字に絡めて配置し、楕円でリンクさせ「交流」を強調しています。配色は国旗の共通色「赤」をメインに「金」をプラス。金は「ゴールデン・ジュビリー（50周年祝典）」の意味があるそうです。シンプルな配色で、格調の高さを印象付けています。

これを記念して、50以上のイベントなどが開かれました。コンサート、日本文化紹介、映画上映、演劇、書籍販売、北海道フェア、日本食見本市、ファッションショー、デザインコンペ、アジア少年野球大会、日本語を学ぶ学生を中心として「日本語で遊ぼう」、記念切手の日本とシンガポールでの共同発行などです。シンガポール日本人学校でも、現地校との交流や記念Tシャツ、運動会での表現などに取り組みました。

さて、この中で一番大きなイベントは、10月の29・30日に行われたSJ祭りでした。その中でも、最大のイベントがフレンドシップパレードです。10月29日（土）午後8時～午後9時／オーチャードロードを閉鎖し、約2,000人の日本人がパレードしました。シンガポールの歌を歌ったり、阿波踊りを踊ったりしてパレードしました。沿道には、約1万人の人が応援してくれていました。高島屋前の広場では、NHK・JAL・ANA・JTB・Panasonic・学研・郵便局・HITACHI・KIRIN など50近くのブースで身動きができないほど、日本の人気を感じられました。

他にも、熊本からくまモン隊が出動する「クマモトサプライズくまもん隊」日本・シンガポールを代表するストリートパフォーマンス。ヒューマンビートボックス&三味線、ブレイクダンス、BMX（バイク）アクション「ストリートX」。NHKキャラクターのどーもくんの「どーもくんスペシャルダンス」& シンガポールを代表する女優「ミシェル・チョントークショー」。徳島、高



円寺から特別に構成された最高峰の 60 名が出演する阿波踊り。AFA(Anime Festival Asia)とキャノンによる「コスプレファッショントークショー」。このように、特設されたステージで様々なパフォーマンスがありました。2日間でその数は40にもなり、日本・シンガポールやアジア諸国から 34 団体が参加していたそうです。昨年のシンガポール独立50周年に続いて、記念の年にいられることを感謝しました。



シンガポール便り 97

2016年11月10日 三好 隆志

シンガポール日本人学校開校50周年

シンガポール日本人学校、1966年から50年歩んできました。たった、3人の教師と27人の子どもたちで出発したのですが、現在はチャンギ校とクレメンティ校と中学部を合わせて2400人近くの子どもたちが通う学校に発展しています。また、卒業生は14,000人を超えます。式典には、5・6年生と中学生全員が参加しました。

まず、両国の国歌を斉唱しました。特にシンガポール国歌は、マレー語で堂々と歌い、シンガポール人の来賓も喜んでおられたようです。次に、学校運営理事長・大使館臨時代理大使・日本人会会長から祝辞をいただきました。これまでの発展は、保護者の教育に対する情熱、教職員の努力、日本人会のサポート、日本政府のサポートによるものとお話されました。また、シンガポール国民への感謝も大切だと強調されていました。次に、現地の7校の交流校および、校歌を作曲された先生に記念品が贈呈されました。5年生が交流しているイーミン校は、9年後に50周年を迎えるそうです。交流が続き、一緒にお祝いができるとうれしいです。

次に、各学校の代表3人の子どもたちが、50年の歴史を映像で振り返りました。特に印象深かったことは、戦争記念碑を映しながら、第2次世界大戦において日本がシンガポールを占領した不幸な出来事も忘れずに、平和を守っていかこうとする姿勢を表したことです。参加したシンガポール人からも、勇気・前向き・国際感覚等の点で、日本人学校の教育に対し尊敬が一層増し、高い評価をいただいたそうです。そういった評価は、これからも平和教育を続けていく力になったのではないかと思います。

さて、子どもたちの出し物の番になりました。クレメンティ校は、ソーラン節を踊りました。充分とはいええないスペースでしたが、迫力満点で素晴らしかったです。そして、チャンギ校は「虹を渡って」の3部合唱でした。申し分のない心のこもった歌声でした。3校の代表が、「100周年に参加したい」など夢を発表した後、校歌を作曲した先生がその当時の思い出をお話しされ、夢や希望が広がるようにと作曲したとうかがいました。最後に、先生の指揮で、会場全員で校歌を大合唱しました。

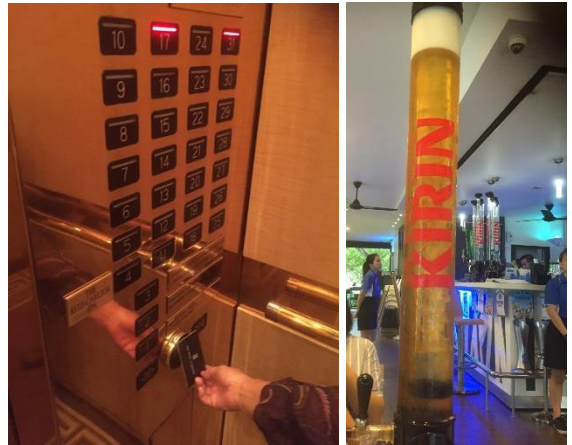


シンガポール便り 96

2016年10月31日 三好 隆志

分かりますか

日本では、夏の時期のビアガーデンが楽しみです。シンガポールでは、ビアガーデンというシステムはありません。いつも夏だから、特にビールの季節というわけではないでしょう。ところで、日本では何人かでビールを飲むときに、1杯ずつのグラスで飲むより割安なピッチャーで飲むことがあります。大きな入れ物で、グラスに注ぎ分けるのに用いるのがピッチャーです。だいたい持ち手付きで、容量は2ℓ程度でしょうか。陶磁器製やプラスチック製やガラス製などがあります。シンガポールでもピッチャーはありますが、右の写真のようなタワーの方をよく見ます。中に筒が入っていて氷や保冷剤を入れ、ギンギンに冷えています。だいたい3ℓくらいです。豪快に見えてよけい美味しく感じます。



次に、ホテルやマンションでは、エレベーターに乗ったらカードをかざさないと動きません。外部の不審者が入らないようになっているわけです。

また、バスには写真のようなハンマーが、複数個備え付けられています。いざという時に、このハンマーで窓ガラスを割り外に脱出するというものです。



モールやデパートのエスカレーターで驚くのは、落下防止の措置が取られていないことです。エスカレーターだけが空中に浮いているような感覚で、5階以上の高さだと、下を見ると非常に恐いです。また、すぐに次の階に行くことができず、ぐるっと回って乗り込む経路にあります。きっと、少しでも売り場を見てもらいたいということなのでしょう。ただし、急いでいるときはつい日本のシステムが便利だと思ってしまいます。



最後は、マラソンです。熱帯の国シンガポールでも、各種のマラソンが行われています。その中で最大のものは、毎年12月の第1日曜日に行われるシンガポールマラソンです。フルマラソンやハーフマラソンなど合計55,000人も参加者が走り、日本人も1,000人以上が参加します。日中は暑いので、まだ夜明けまで3時間近くある午前4時から順次スタートします。



シンガポール便り 95

2016年10月27日 三好 隆志

質問コーナー

いつもシンガポール便りを応援してくれて有難うございます。今回は、いくつかの質問に答えていきたいと思います。

1 自動販売機はありますか。

ありますが、酒やタバコの販売機はありません。日本のように道端にはなくて、学校や病院や公園などにあります。また、マンションの中にもあります。値段は、コーラで100円くらいです。



2 コンビニはありますか。

これも、もちろんあります。でも、ほとんどは約600店あると言われるセブンイレブンです。また、自動販売機と同じように、道端にあるというわけではありません。モールや駅前商店街などに、他の店と並んであります。日本のように、広い駐車場をもち、車で寄るといふ立地ではありません。



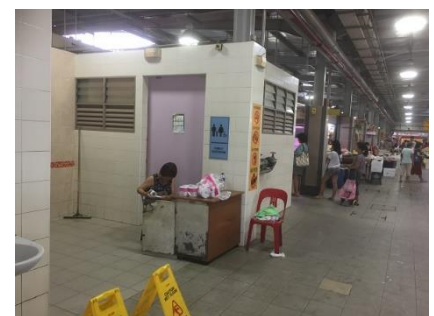
3 ウォッシュレットのトイレはありますか。

日本人会には、写真のようなウォッシュレットがいくつか設置されていますが、それ以外ではほとんど見たことがありません。マレー系の人々は、便器横に置かれたバケツの水や水道のホースで洗うようなので、ウォッシュレットのようなものがあったとしても重なってしまうのかもしれない。



4 トイレは無料ですか。

レストランや公園など、ほとんどは無料です。ホーカーセンターでは、写真のように10円程度を入り口でとっている所が多いようです。そのお金で、常に清潔に水で流すなどの掃除をしています。また、トイレトイレットペーパーは、そのような場所ではないようです。



5 日本食は手軽に食べられますか。

シンガポールでは、大型ショッピングセンターやモールの全てに日本食レストランがあるといっても過言でないくらい、日本食が浸透しています。最新の推計によると、現在シンガポールには900軒以上の日本食レストランがあるそうです。そのうち3分の1は寿司店で、残りがファミリーレストランや居酒屋、鉄板焼き店やラーメン店などとなっています。値段については、駐在・居住する日本人を対象にした日本食レストランでは非常に高いです。しかし、最近では「格安日本食レストラン」が台頭し、手頃な価格で日本食に似た料理を味わうことができます。



シンガポール便り 94

2016年10月20日 三好 隆志

クランジ戦争墓地

シンガポールの戦争モニュメントを、今までにいくつか紹介してきました。今回は、クランジ戦争墓地を紹介します。場所は、シンガポール北部のジョホール海峡近くにあります。近くには、スンゲイブロウ自然公園があります。1939年以前に、この辺りはシンガポール連合軍のキャンプでした。第2次世界大戦でマレー半島に日本軍が侵入した時に、ここは大きな弾薬庫になっていました。1942年2月8日に、日本軍はジョホール海峡を渡って、戦争墓地が現在ある場所の近くクランジ川の河口に上陸しました。2月9日の夕方に、戦いが始まりました。数日にわたる激戦の後、日本軍はクランジで捕虜キャンプを作りました。そこで、捕虜によって小さな墓地が造られたのです。1946年に、それまでシンガポール東部チャンギ地区にあった大きな墓地は、このクランジまで移設されました。他にも、フランスのサイゴン軍の墓地などからも移転されてきました。ここに埋葬されているのは、オーストラリア、カナダ、インド、マレーシア、オランダ、スリランカ、イギリスとニュージーランドなどの異なる国の人たちで、第二次世界大戦の約4,500人の連合軍犠牲者です。そのうちの850人以上は、身元不明だそうです。また、1942年2月の戦闘で亡くなった69人の中国軍人も埋葬されています。インド軍も千人以上祭られています。日本軍が占領した後、負傷した一般人と軍人が、たくさん病院に運ばれました。これらの多くは亡くなってしまいました。そして、集団埋葬は400人以上に上りました。そのために、十字が墓の上に造られています。この墓地は戦争 MEMORIAL でもあります。連合軍の24,000人以上の犠牲者が祭られています。彼らは行方不明であったり、囚人であったりして多くは没年月日がありません。陸軍の兵士は、マレー半島とインドネシアの戦闘や囚人となっている間に亡くなりました。どこか他の捕虜施設に運搬されている間や、ビルマ-タイ鉄道の建造の間にも亡くなりました。この墓地は、整備されて1957年3月2日に公開されました。写真で分かるように、とてもきれいに整備されています。そして、一人ひとりのお墓を見て回ると、写真のように20歳前後の非常に若い人が多いことに驚き、心が痛みます。シンガポールの人々が、戦争を忘れずに、平和の大切さを伝えていこうとする気持ちが伝わってきました。戦後70年以上が経過し、記憶が風化しないように努力を続けたいです。



シンガポール便り 93

2016年10月15日 三好 隆志

スンゲイブロウ

シンガポールは、かつて熱帯雨林やマングローブが広がる自然豊かな所でした。しかし、急激な都市化によって自然が少なくなっています。その中で、シンガポール北部にあるスンゲイブロウは、202haものマングローブや干潟によって、不思議で静かな自然のオアシスとなっています。昨今は、ISなどによるテロが世界各地で発生し、対岸はマレーシアのジョホールで、わずか1kmほどの距離を挟んだだけなので、海岸線の警備についての注意が見られました。スンゲイブロウでは、2002年から、豊かな生物の多様性を有する自然保護を行っています。シンガポールでは、初めてのヘリテイジパークに認定されています。それ以来、公園では慎重な調査および管理と教育を通じて、この湿地帯の保存に取り組んでいます。ですから、訪問者も大声やペット同伴、自転車乗り入れや通路遵守などに気をつけなければいけません。公園に入るには、運動靴や飲料水の準備、虫除けなどが必要です。

さて、コースですが、東端のビジターセンターから1300mが海岸コースになっています。ゴールした所がウェットランドセンターです。そこから西に1950mの渡り鳥観察コースがあります。まず、海岸に目を向けると、有明海で有名なムツゴロウのような生き物が跳びはねています。マッドスキッパー（Mud Skipper）です。ムツゴロウと同じトビハゼの仲間、発達した胸ビレを使い、その名の通り泥の中をピョンピョンと跳ねて移動します。目は、それぞれが独立していて、200度も周囲を見ることができ、虫を食べるのに適しているそうです。口の中に水を含むことで陸上でも呼吸が可能で、濡れた皮膚での皮膚呼吸もできるため、魚でありながら水中より陸上で過ごす方が多いというおもしろい生き物です。縄張り意識が強く、自分専用のプールを作るので、小さな水たまりの傍らにいるのをすぐに見つけることができます。ユニークな見かけによらずなかなか好戦的で、マッドスキッパー同士の小競り合いもよく見られ、大きな個体が小さな個体を食べてしまうこともあるそうです。台湾の人が好んでフライにして食べますが、シンガポール人はトイレの味がすると言って食べません。

干潟にできる小さな水の流れをよく見てみると、流れを遡上するカブトガニの姿が見られます。若くて小さなカブトガニで5cmから10cmぐらいのものが多いのですが、その形は紛れもなくカ



とっていいのは写真だけ
残していいのは足跡だけ



ブトガニです。2億年前からその形を変えないカブトガニは「生きた化石」と呼ばれています。ミミズやゴカイを食べますが、1、2年は食べなくても生きていられ、呼吸もえらさえ濡れていれば大丈夫だそうです。水がきれいな干潟にしか住めないため、マングローブの湿地帯の「顔」と言われています。インドネシア人は、身が小さいカブトガニも食べるそうです。次にキノボリガニは、満潮時になるとその名の通り木に登ります。あまり高く登りすぎると鳥に狙われてしまうので、「適度な」高さに身を置いています。マングローブは、なかなか落葉しません。キノボリガニはその葉を食べ、落とした糞は腐葉土に変わる貴重な養分となります。干潟には、他にもシオマネキやウミヘビやエビ、マッドロブスターなど多種多様な生き物が息しています。

干潟から移動し、クランジ川流域に目を移すとオオトカゲやサル、運が良ければワニも見ることができます。シンガポールは、渡り鳥のルートにもなっています。特に、冬の間はその観察に適しています。シベリア～オーストラリア

12000kmの間の大事な栄養補給&休憩ポイントとして、スングエイブロウは鳥たちの貴重なオアシスとなっているのです。そして、サイチョウなどの大変珍しい鳥に出会うこともできます。スングエイブロウには、マングローブ植物以外の熱帯地域の植物も見られます。シーアーモンドは、アーモンドのような実をつけ、その実も食べられます。もちろんここは湿地保護区なので、採取も食べることもできません。ただ、「アーモンドモドキ」で本物のアーモンドではありません。熱帯地域の植物としては、数少ない紅葉する木として知られています。和名では、「モモタマナ」と言います。

また、シーハイビスカスの花も見られます。朝、黄色い花を咲かせると午後にはオレンジに色が変化し、一日で花を落としてしまう一日花です。葉には糖分があり、アブラムシが好んで集まります。和名は「オオハマボウ」、マングローブの後縁に群落を作ります。

他にも、夜には白く光るホタルが飛びそうですが、残念ながら午後7時で閉園するので見ることはできません。また、蝉の声が森の方ではシャープに聞こえ、海岸部ではゆっくり聞こえると言われています。聞き比べてみるとおもしろいことでしょう。



マングローブ展示室



国際理解職員研修

シンガポール便り 9 2

2016年10月10日 三好 隆志

マングローブ

今回は、マングローブについて紹介します。マングローブとは海水と淡水が混ざり合う「汽水域」に生える植物の「総称」になります。海中に没してしまうものや、海辺に生息するもの、そして椰子のように山や川にもあるものと、多様な生息状態となっています。そのため種類は、88もあるそうです。主要な樹木の多くがヒルギ科、クマツヅラ科、ハマザクロ科（マヤブシキ科）の3科に属する種です。また、生態も樹木、低木、つる、ヤシの木、草と多様です。ヒルギというのは「標木」と書きます。ただよう木という意味なのですね。

マングローブは主に熱帯で見られますが、世界最北の天然マングローブは鹿児島県種子島になり、それより北に自然のマングローブはないそうです。世界の約40%はアジアに生息していて、その中でも、インドネシアは450万haと、最大の面積をもっています。

マングローブの最大の特徴は体を支えるための根にあり、その形状は種類により様々です。広葉樹が落葉しても生きているのは、根で呼吸しているからです。マングローブも根で呼吸しますが、塩水に浸かっていたら呼吸できません。だから、根を空中に出す工夫をしています。下から上にシュノーケリングのように出しているのが呼吸根と呼ばれるものです。また、上から下へ伸びているものは気根と呼ばれます。マングローブは、根で呼吸するだけでなく、海水を濾過して95%以上真水に変えるそうです。では、残りの塩分はどうしているのでしょうか。それは、自分の葉を犠牲にしているのです。マングローブの葉をよく見てみると、ところどころに黄色い葉があります。実は、これが犠牲になった葉なのです。葉をなめてみると塩辛い味がします。下の古い葉を順番に、塩分を集めていくそうです。自分の身を犠牲にして生き延びるという知恵には驚かされます。

マングローブの種子について説明します。マングローブは種子によって深さが違います。かたくて、落下して土中にささり増えていくものと、流されていくものがあります。流されている時も、葉緑体をもって浮いて9カ月も生きるそうです。

さて、マングローブは環境に優しい植物です。まず、その根



元では貝やエビ、カニやハゼなどが生息し、それらを捕食するとかげやサルや鳥などが集まり、根が海水に浸かると幼魚や小さな生物の隠れ家となります。こうしてマングローブ特有の生態系が育まれてゆくのです。次に、防波堤の役目をします。強風・波浪・高波・津波などから陸地の崩壊や人命の損傷を防いでいます。実際に、スマトラ沖地震後の津波被害も、マングローブ林のある地域の被害はない地域に比べて格段に少なかったそうです。それから、土の流失を防ぐので、サンゴの保全に役立つそうです。そのサンゴもマングローブ同様、地球温暖化や海水汚染などの影響で、大きく減少しているそうです。他にも、マングローブは、医療機関を利用できない地域では、種子・樹皮・心材・葉などを薬用・飲料・食用に利用しているそうです。また、地球温暖化の大きな原因の二酸化炭素を、他の植物よりも大量に酸素に換える働きもあります。

マングローブの減少ですが、全世界で現在は 1810 万 ha になっていて、50 年間で 16% になってしまったそうです。マングローブが減少している原因としては、次のようなことが考えられます。まず、エビの養殖池にすることです。それは、マングローブを根こそぎ伐採して作られます。マングローブを伐採して作られた養殖池は、エビの餌となる有機物が豊富で何も与えなくともエビは育ちますが、それも数年で餌となる有機物がなくなってしまう、人工飼料を与えることとなります。食べ残しが池の底に堆積し、それが原因で病気が発生し、養殖に向かなくなったら養殖池は見捨てられ、またマングローブを伐採して新たに池が作られるという悪循環となります。エビを世界で一番よく食べるのは日本人なのですが、そのような環境破壊については、あまり知らされていません。次は、薪として利用しているということです。マングローブの炭は強い火力と持続力があり、煙も立てずに燃焼します。日本の備長炭に勝るとも劣らないとも言われており、とても質が良いのだそうです。

マングローブの減少に対して、JICA ではインドネシアのマングローブ保全の取り組みを 1992 年来支え続けているそうです。植林にも取り組んでいて、1本50円くらいで自分の名前をつけてもらったマングローブの苗を植えることができました。

このような貴重な地球の宝が、ずっとずっと生き続けるように、私たちは環境を守っていかなければならないと思いました。



支柱根



筍根



屈曲膝根



板根

シンガポール便り 9 1

2016年10月5日 三好 隆志

バリ島7

今回は、バリ島シリーズの最後です。インドネシアには、約1万人あまりの日本人が居住し、ほとんどは首都のジャカルタに住んでいます。そして、バリ島は2,000人と2番目に多く住んでいる地域だそうです。インドネシアの経済は、一人当たりのGDPで見ると、30年でおよそ30倍になっているそうです。2015年では、40万円近くになります。日本の場合は、2～3割しか上がっておらず、420万円くらいだそうです。また、日本の10分の1ではありますが、急激な経済発展といえます。

さて、バリ島は観光業で成り立っている面が大きいのですが、テロによって何度か大きな影響を受けてきました。新しくなった空港の警備は厳重ですし、高級ホテルでは入り口で爆弾に対応する探知機を使っていました。そして、最近の好景気によって、物価高や交通渋滞や人手不足などの問題が起こっているようでした。個人的には、のんびりとした古き良き素朴なバリ島のままでいてほしいと思いました。

写真の説明をします。油紙に包んで売られているのは、お弁当です。およそ100mおきに、バイクの弁当屋さんが道端で売っています。通勤途中のバイクの人たちが、次々に降りて買っていきます。値段は100円くらいのお手頃価格です。

食べ物で言うと、私は辛いことで有名なパダン料理が好きです。パダン料理とは、スマトラ島の中部の都市パダンからついた名前です。ココナッツや唐辛子を使った辛い料理で、種類ごとに皿に盛りつけて、飾り棚にピラミッドのように重ねています。観光客には向かない食事のようで、ローカルの人が食べたり持ち帰ったりしています。持ち帰りには、お弁当屋さんと同じように、紙とバナナの葉で包んでくれます。私は、特に牛肉を使った、ルンダンゴレンという料理が好きです。シンガポールにも、ナシパダンというパダン料理店がたくさんありますが、インドネシアの料理よりも辛くなく、一般受けするようにアレンジされています。

最後は、サーフィンです。今から30年くらい前は、バリ島はサーフィンだけが有名で、観光地ではありませんでした。私



の友達は、サーフボード工場を経営しています。一番のお客さんはオーストラリア人だそうです。実は、私もせっかくバリ島を訪れたので一度チャレンジしてみたのですが、残念ながら負傷して病院に行くようなことになってしまいました。大したけがではなかったのですが、スキーなどと同じくセンスがないと思いました。まあ、サーフィンを見ながらビーチでゆっくりするのがいいのでしょう。

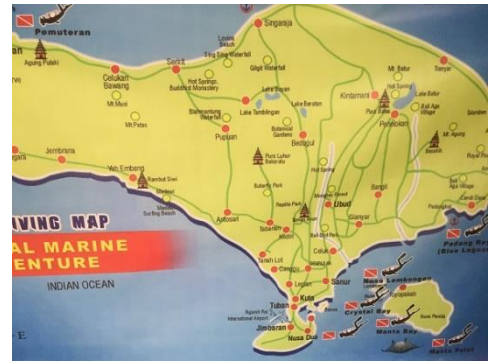


バリ島6

今回は、バリ島の世界遺産について特集します。インドネシアの世界遺産で有名なのは、1991年に登録されたジャワ島中部のジョグジャカルタにあるポロブドゥール遺跡とプランパナン寺院です。そしてバリ島でも、2012年に世界遺産が誕生しました。それは、「トリ・ヒタ・カラナというバリ・ヒンドゥー教の哲学を元に独自の水利システム・スバックによって維持される水田地域の文化的景観」です。つまり、約2万ヘクタールに及び5つの棚田地域の景観のことです。世界遺産に認定されたのは、次の5つのエリアになります。■バトゥカウ山保護地区スバック(棚田)、■タマン・アユン寺院、■バトゥール湖、■ウルン・ダヌ・バトゥール寺院、■プクリサン川流域のスバック(棚田)。スバックというのは、9世紀以来のバリ島の水利組織で、2008年度の時点で1627のスバックが存在しているそうです。この水利組織は公平な水の配分を実現する農民たちのまとまりであると同時に、スバックごとに寺院を持ち、水の神や稲の神などへの崇拝や、それに関わる宗教儀礼とも密接に結びついてきたそうです。

その中で、今回私はバトゥカウ山保護地域スバックに行きました。そこは、クタ地区からは約60km北に位置し、車で2時間くらいかかりました。バトゥカウ山は、タナバン県にあるバリ島で2276mと、3142mのアグン山に次ぐ2番目の高さの山です。そのふもとでは、標高800mくらいですから、少し涼しく気持ちいいです。有名なのはヒンドゥー教のお寺で、バトゥカウ寺院と呼ばれています。広いライステラスのジャティルイも有名です。ブドゥグル高原の中心部ブラタン湖にも行きました。バリ島の水がめになっているそうです。湖のほとりに立つお寺「ウルン・ダヌ・ブラタン寺院」も有名です。棚田は、観光客がハイキングできるようになっていて、30分から2時間のコースに分かれていました。平地が少ないため棚田になっているわけですが、見事に用水路が整備されていて感心しました。

また、高原で涼しい気候を利用して、コーヒーやイチゴの栽培が盛んなようでした。観光農園がいくつかあって、美味しいイチゴをいただくことができました。





イチゴの栽培



イチゴのデザート



バリ島4

今回は、バリ島の魚市場について特集します。私の宿泊したホテルの前の海には、大勢の釣り人が海の中に入って魚を釣っていました。朝から、何匹か連れたらバイクで帰る人が入れ替わっていきます。釣れた魚を見せてもらいました。これは、サヨリだと思えます。60cmくらいもある大物が多かったです。焼いても刺身でも美味しそうです。

さて、クタ地区の南、空港に近いジンバランの海岸に魚市場があります。見学に行くと、ちょうど小舟で網にかかった魚を取り込んでいました。20cmくらいの鰯だと思えます。船は、手漕ぎの小さなものが多く、一人で漁をしているのだと思えます。

次に、沖合に目をやると、小舟がたくさん停泊していました。これらは、魚市場に水揚げで来ている舟のようです。中には、沿岸で漁をして来た舟だけでなく、スラバヤからバリ島では穫れない魚を運んで来た舟もあるそうです。大きな船から魚を積み替えてきているものもたくさんありました。その中では特に、まぐろが目立ちました。

値段ですが、さすがに安いです。ただ、みんな1kg単位で売られていますから、たくさん買いすぎるかもしれません。例えば、イカは300円、エビは800円、タイが500円、伊勢海老が1500円、マグロは5kg 70cmくらいが600円でした。

市場の中に入ると、魚の種類が多さに驚きました。カツオやカマス、シイラやクエ、タコなど大量に売られていました。また、市場の外では、何十人ものおばさんたちが小さな店を開いていました。レストランなどの仕入れで来ている人も多い市場の中と違って、少し小さな単位でも売ってくれるようでした。

最後に、ここで買った魚やエビなどを、すぐにバーベキューで焼いてくれる店も周りにたくさんありました。値段は、200円くらいです。炭で焼く以外に、ヤシの皮で焼いている店もありました。サンバル（辛い調味料）で焼かれていて、エスニックな味付けは好みが変わるかもしれません。私は、もちろんサンバルが大好きだから、穫れたての新鮮な魚介類は、一度味わったら病みつきになる人も多いかもしれません。





まぐろの水揚げ



まぐろの計量



沖合から水揚げ



市場の中



調理してくれる店



バリ島3

今回は、バリ島のホテルについて特集します。まず驚いたのが軍艦の存在でした。沖合すぐのところに大きな軍艦が、私が滞在していた1週間はずっと停泊していたのです。甲板には、ヘリコプターも見えました。直前にミサイルでシンガポールを攻撃しようとしていたISに影響を受けたイスラム過激派の男6人を逮捕したということや、国際会議を開催していた期間だったということから、いざという時に備えていたものと思います。

さて、バリ島には主に4カ所のリゾート地があります。ビーチ地域では、広い砂浜や土産物屋などが並びにぎやかなクタ地区、大型のホテルが建ち並び人工の白浜プライベートビーチになっているヌサドゥア地区、ひなびて静かなサヌール地区です。そして、少し高原で涼しく、棚田が美しいウブド地区です。私は、今回ヌサドゥア地区の北隣タンジュンブノア地区のホテルに滞在しました。東のバリ海に面していて、きれいな砂浜が続きコンラッドやクラブメッドなどの高級ホテルが立ち並び地区です。また、このビーチではパラセーリングやジェットスキーなど、マリンスポーツアクティビティが盛んにおこなわれています。部屋は、寝室とリビングの2室、そしてキッチンもありました。宿泊客は欧米人が多く、短い滞在の人はいないようでした。値段は、シンガポールの4万円前後と比べて半額以下になっています。ところで、バリ島への日本人年間旅行者数は、20万人余りだそうです。これは、オーストラリアや中国などに続いて4位くらいになります。10年ほど前は、観光客の30%を日本人が占め第1位だったのですが、爆破テロ事件やバリ島自体の物価上昇、そしてJAL直行便の廃止などで、5%ほどに激減してしまったのです。

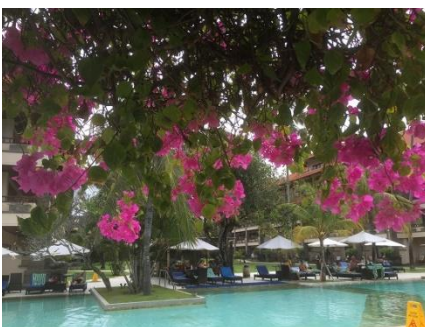
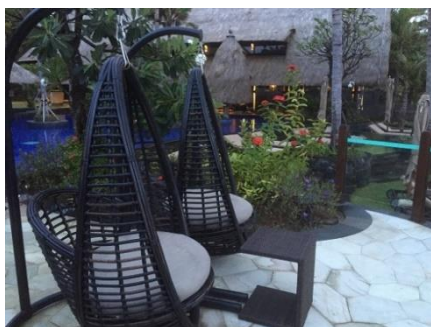
さて、ホテルで特徴的なことは、プールの大きさです。写真のように1階の部屋からすぐにプールに入れたり、ウォータースライダーやプールの中に砂浜があったりします。しかし、泳いでみるとプールの水が少し塩辛いのです。これは、地下水に海水が含まれていて、それをくみ上げているからかもしれません。シャワーは真水ですが、水道の水は飲むことは控えて、ミネラルウォーターを利用します。ホテル内の施設としては、いくつかのレス



トランやエステサロン、フィットネスなどがあります。また、プールサイドにはハンモックがあったり遊具があったりします。欧米人の多くは、一日中寝そべて本を読んでいる様子を見ました。それでも、せっかくリフレッシュのため来ているのにプールサイドですっとゲームをしている子どもたちもいて、最近のポケモンGOブームと共に、複雑な思いをしました。

それから海の水ですが、あまりきれいではありません。やはり、たくさんの人口があり、生活排水などで汚れるからでしょう。海で泳ぐには他のレンボンガン島やロンボク島などに渡るか、人口の少ない北部のビーチなどに出かけないといけないようです。

ところで、1990年あたりから急激に観光化が進んだバリ島では、古くなったホテルが次々と建て替えの時期を迎えると思います。私の宿泊したホテルの近くでも、ミラージュやハイヤットなどたくさんのホテルが建て替えをしていました。



バリ島2

今回は、バリ島の動物について特集します。まずは、犬についてです。バリ島の人口は、約400万人だそうです。そして、その10分の1の40万頭も犬がいるそうです。犬の種類は雑種です。暑いためか、みんな毛足が短いようです。リゾートの海岸でも、田舎の道路でも、たくさんの犬を見かけます。ほとんどは首輪をしていないため、野良犬かと思いましたが、実は飼い犬でも放し飼いをしていることが多いそうです。ところが、何年前かに狂犬病が発見され、観光面でマイナスイメージになるため、最近では駆除されているそうです。また、食肉に1歳くらいの若い犬は連れていかれることもあるそうです。狂犬病は恐ろしいですが、のんびりしている犬が多いので可愛そうな気がします。

次は、ねこです。ねこも、犬と同じようにたくさん子どもを産んで困った人が、よく路上に捨てるようです。ただし、バリ島ではヒンドゥー教が信仰されており、猫は神様に近い存在なのです。お土産物の猫の置物は、とても有名だそうです。この猫の置物を飾っておくと、幸運が訪れるとの言い伝えがあるのだそうです。ねこも、毛足が短いですし、顔が日本のように丸くなくて細くかっています。犬にしてもねこにしても、赤ちゃんから1年くらいの内に死んでしまうことが日本よりすごく多いそうです。やはり、衛生状態や気候の関係でしょうか。野良ねこにしないためには、避妊手術をしてあげたいのですが、約5000円の費用は、現地の人にとっては高額になるわけです。

次は、にわとりです。にわとりもやはり放し飼いになっています。写真のような養鶏場は、鳥インフルエンザの流行で、すっかり減ってしまったそうです。また、1羽だけかごに入っている大きめのにわとりは、闘鶏用の鳥だそうです。戦う時には、にわたりの足に弓なりの小さなナイフがつけられるそうです。負けたにわとりはその場で殺されます。これもまた可愛そうです。とはいうものの、にわとりはイスラムの人でも、ヒンドゥーの人でも食べることが出来るお肉だし、放し飼いで身が引き締まったお肉はとても美味しいです。

さて、次はリスです。ホテルのヤシなどの木に登ったり下りた



りして、すぐに見つかります。ホテルのビュッフェから果物などを持ち帰って置いておくと、近くで食べる様子が見られます。やはり、暑いので日本のリスよりも毛が短いような気がします。私の毛が短いのも、南国だからでしょうかね。

最後は、うさぎです。ペット用かと思っていたら、食用に飼っていました。サテ（焼き鳥のような食べ方）にするそうです。何とも可愛そうな感じですが、ペットとして飼っても暑いので長生きはできにくいそうです。



バリ島1

バリ島に、10年ぶりの旅行をしました。多分10回目くらいだと思います。1週間滞在し、友人の家とホテルとに泊まりました。バリ島は、プーケットやペナンのようにリゾートであることに加え、踊りや祭りや自然や芸術など、たくさんの魅力があります。だから、他のリゾート地よりもリピートする人が多いのだと思います。

さて、まずは学校の様子を特集します。公立校は、原則無料です。私は、1995年から3年間ジャカルタ日本人学校で勤務していましたが、その時のメイドさんは小学校卒業でした。今は、ほとんどの子どもが（約9割）、義務教育の中学校まで進むそうです。学校は、2学期制で6月から7月にかけて1カ月学年末休業があります。朝は、7時ころから始まり、12時頃に下校します。だから、お昼ご飯は家に帰って食べます。全ての学校では写真のように制服があります。だいたい3種類あり、曜日によって着替えます。また、体育がある時には、体操服で登校します。写真のように、登下校は親やメイドさんに送迎してもらっている子ども多いです。また、高校生になったら、自分でスクーターを運転している生徒もたくさんいます。欲しいもののトップは、スクーターや携帯となっているそうです。それは、ローンが組めるようになったからで、スクーターは約15万円くらいです。ホンダとヤマハが人気です。それは、アフターサービスがいいからだそうです。エンジンは日本から送っているようですが、組み立てはインドネシアでやっています。日本からの輸入車だと2倍以上の金額になってしまいます。さて、15万円といっても、庶民には高い買い物です。2万円くらいの月給が多いので、毎月5000円の支払いが滞って、スクーターを販売店に没収されることになる人も多いようです。近くから歩いて来る子ども以外に、遠くから乗り合いバスで通う子どももいます。写真は、日本で7人乗りの車に、倍以上の子どもが乗っていて、ドアが閉まらない様子です。また、田舎に行くと、17歳未満の子どもがスクーターに乗っていたりタバコを吸っていたりするのを見ました。バリ島の人は、男性のほとんどがタバコを吸うし、田舎では警察も厳しく言わないみたい



です。

写真は、公立校の掃除の時間です。公立校は無料ですが、私立校は1万円くらい必要です。私立校は、中学校や高校も同じ敷地にあることが多いです。そして、始まりは8時半で3時頃まで学校があります。つまり、日本とほとんど同じということになります。だから、お弁当が必要になります。また、学校内にキャンティーンがあって、安く軽食が食べられるようになっています。

さて、学校が終わったら、公立校の子どもは家の手伝いをしたり遊んだりしています。しかし、最近は学歴社会化が進行し、職業が違くと、初任給で大きな違いが出るために、塾が発達してきているようです。インドネシアは、発展と共に物価も上昇しています。例えば、運転手は私の赴任していた頃は2万円前後でしたが、現在はその2倍になっているようです。大学の進学率は3割くらいですが、卒業した人の初任給は10万円くらいだそうです。

さて、学校の教科ですが、インドネシアにはたくさんの民族がいて言語があります。バリ島にはバリ語が存在するわけです。それぞれを統一する共通語としてインドネシア語ができたので、細かい表現はあまりない簡単な言葉になっています。だから、バリ人同士で会話するときは、バリ語を使うことになります。子どもたちは、インドネシア語とバリ語、そして英語の3カ国語を学習することになるわけです。

最後に、日本人の子どもたちです。ほとんどの子どもたちが現地校で勉強した後、4時から6時まで日本人補習校で週に2度くらい学習しています。土曜日は、半日学習します。幼稚園から中学校まで、約300人が学んでいます。今年度から高校も作っていくようです。教科は、国語が主で、算数も学習するコースがあります。異国の地で、がんばっている日本の子どもたち。大きくなって、インドネシアと日本の架け橋になって活躍してくれることを願っています。

写真は、田舎のガソリンスタンドと、大きな荷物をスクーターで運ぶ人です。





見所いっぱい！シンガポールの歴史的公園

フォートカニングパーク

イギリスの植民地時代に、イギリスの要塞「フォートカニング」が建てられた、歴史的な場所「フォートカニングパーク」。とーっても広い敷地なので全部を見てまわるのは時間がかかってしまいますが、今回は、フォートカニングパークの見所を紹介しつゝ、朝5時より開園している美しく整備された公園で、東京ドームが10個以上入る広大な敷地をもつフォートカニングパーク。ぜひ、行ってくださいね。

見所その① フォートカニンググリーン



白い門をくぐった先は「フォートカニンググリーン」と呼ばれるエリアです。野外映画や音楽パフォーマンス、アート作品の展示など、屋外イベントがよく開催されています。

見所その② フォートゲート



フォートカニングの要塞を守ったフォートゲート。フォートカニングパークに軍の司令部が置かれ、シンガポールが日本国により占領されていた際にも日本軍の重要な施設として利用されていて、軍事目的にも多く活用された場所となっています。

見所その③ スパイスガーデン



植物としてのスパイスを見られるなんてとても貴重です！トウガラシやレモングラス、ラクサリーフ…様々な植物があります。写真付き看板があり、どの植物が何のスパイスなのかわかるようになっています。

見所その④ 灯台と大砲



実際に使われていた灯台と、城壁の外を向いた9インチ砲。歴史を感じることができるスポットです。

バードパーク

「Jurong Bird Park (ジュロン・バードパーク)」は、動物園とナイトサファリとリバーサファリの3施設と合わせて、シンガポールの生き物4大施設です。同じ経営母体が運営しており、セットになったチケットもあります。北部にある他の施設とは離れて、西部にあります。私のマンションは東部にあるので、MRTとバスを乗り継いで2時間近くかかりました。このバードパークは、1971年のオープン以来、毎年約80万人もの観光客が訪れるそうです。約20ヘクタールの広大な敷地に、約400種、約5,000羽もの鳥たちが生息する世界最大級の鳥類動物園です。約30メートルの人工滝「ウォーターフォール・エイビアリー (Waterfall Aviary)」や、約2ヘクタール、9階建ての高さの熱帯雨林を囲んだ巨大な鳥小屋「Lory Loft (ローリー・ロフト)」など、鳥たちがより自然に近い環境で生活できるよう配慮された設計で、間近に見られるきれいな鳥たちに心が癒されました。

まず、入場料は29ドルです。しかし、60歳以上ということで33ドルが15ドルになった動物園同様、14ドルになりました。窓口の人は、インターネットでホームページをダウンロードしたら、8月は独立51周年を記念して51%オフだと話していました。シンガポールでは、そういうサービスをよくしてくれます。中は広いので、5ドルのトラムに乗って移動する人が多かったです。日本から来た人は、鳥だけでなく熱帯雨林の迫力に感動すると思います。

バードディスカバリーセンターには、鳥の起源、くちばしや卵や巣の大きさ比べ、絶滅の恐れなどを学習するコーナーがありました。このような施設には、人々に生態を知らせ保存に取り組むという役目があるわけです。

さて、このバードパークには、楽しいショーが3つあります。まず、キング・オブ・ザスカイズショーです。鷲や鷹やふくろうなどの猛禽類が、観客のすぐ上を滑空する様子はすごい迫力です。次は、ハイ・フライヤーズショーです。こちらも円形劇場で行われます。ペリカンやフラミンゴがたくさん登場したり、インコが歌ったりします。インコは中国語とマレー語と英語をしゃべ



りましたが、場内アナウンスは8カ国語でありました。3カ国語の他は、日本語や韓国語などでした。そして、3つ目のショーはランチ・ウィズ・パロットショーです。ランチビュッフェがあるソングバード・テラスで行われます。ランチは25ドルでした。インコやオームがくちばしで絵を描いたり、観客の持ち物を運んだり、すごく賢いところを披露していました。

最後に、私が気に入った鳥を紹介します。

まず、ヒクイドリです。ニューギニアに生息し、熱帯多雨林に生息する唯一の飛ぶことが出来ない鳥だそうです。とても大きくて、この鳥より重いのは、ダチョウだけだそうです。頭のかぶとは、ジャングルの茂みを切り開くのに好都合だそうです。もちろん、絶滅が危惧されていて、ニューギニアでは肉や羽毛などを目的に、豚8頭と交換されているそうです。そういう捕獲だけでなく、熱帯雨林の減少や、他の生物の侵入などから、世界の生存数はたった3,000羽くらいではないかと言われているそうです。

次は、白フクロウです。有名なハリー・ポッターで、主人公ハリーが飼うフクロウのヘドウィグが、このシロフクロウです。この影響で、ペットとしてフクロウを飼う者が増えたけれども、飼いきれずに不法にリリースする者が続出し、イギリスなどで社会問題になっているそうです。生息地は、北極圏などです。白い羽毛は、極地の環境にマッチして、カモフラージュになります。するどい足の爪までも厚い毛でおおわれていて、短いくちばしは顔の羽毛に埋もれてしまいます。成熟したオスがほぼ純白なのに対し、メスと若鳥は黒や褐色の細かいしま模様があります。また、メスの方がオスより大きく、フクロウ類にしては珍しく雌雄の判別がしやすいそうです。

他にも、空中通路があったり、インコやペンギンの餌やりができていたりしました。そういえば、クラスの子どもが日記で「ぜひ、バードパークに行ってみてください。とっても近くできれいな鳥が近くで見られて感動なんだから。」と書いていました。実際に行ってみて、その通りだと思います。特に、小さい子どもにはいいと思いました。



シンガポール便り 82

2016年8月15日 三好 隆志

日本語スピーチコンテスト

このコンテストは、シンガポールと日本の間の理解と関係を深くするだけでなく、より優秀な日本語学習者を育成することをめざして1968年に日本人会で始まりました。今回で48回目になります。何と1890人もの応募者があったそうです。カテゴリーは4つです。それは、中学生の部・高校生生の部・大学生の部・一般の部です。参加資格ですが、両親のうちのどちらかネイティブの日本人でないこと。シンガポール人であること。2年未満の日本滞在期間（小学校前を除く）。過去の優勝者でないことなどです。テーマは自由ですが、幅広い題材をシンガポール人の視点で鋭くとらえた内容となっています。

主催は、シンガポール日本国大使館・シンガポール日本文化協会・シンガポール日本人会・シンガポール日本商工会議所・シンガポール留日大学卒業生協会です。そして後援は、国際交流基金・シンガポール日本人学校・日本語スピーチアワード/NPO法人E.G.G.・シンガポール国立大学 語学教育研究センター・シンガポール教育省 語学センター・シンガポール日本語教師の会でした。

また、賞品が豪華で協賛するのは、全日本空輸・JTB・日本航空株式会社・パソナシンガポール・キャノンシンガポール・静岡県・三菱電機アジア会社・鹿児島県・伊勢丹シンガポール・帯広市（北海道）・明治屋シンガポール・十勝シンガポール友好会・郵船ロジスティクスシンガポールなどです。

今回私が見たのは、各カテゴリーの上位6名ずつが進出した決勝戦でした。会場は、約200人収容の日本人会オーディトリウム。在シンガポール日本国大使や教育長や各協賛企業のトップなど、そうそうたるメンバーが揃っていました。

さて、実際のコンテストですが、中学生の部は何と写真のように全員が女子でした。優勝したのは「初めまして、さようなら、そしてまたこんにちは」という題の女生徒でした。それは、保育園の時に日本に2年ほど住んでいたけれど、10年経過して全く日本について分からなく、また日本語を学ぶことになって原体験を自己肯定していくというものでした。私は「アニメの旅」という題のスピーチも良かったです。シンガポールの若い人は、日本



のアニメが大好きだそうです。有名なドラえもんやクレヨンしんちゃんはもちろん、最近の私の知らないたくさんアニメに夢中です。そして、ドラえもんの映画スタンドバイミーの主題歌ひまわりの約束に泣いたり、日本の故郷の風景に魅せられたそうです。

学年が上がるにしたがって、日本語や日本との出会いだけでなく「何のために生きているのか」とか「能体験」とか深い内容のスピーチに感心させられました。また、いじめを克服していった体験のスピーチもありました。また、ユーモアを交えたり、ジェスチャーを入れたり、日本人よりも日本人らしい人もいました。

このコンテストは、10時に始まり、途中1時間のランチタイムがありました。何と無料でした。写真のように、おでんやお寿司や唐揚げなど、200人が満腹になる量がありました。そして、午後の部があり、発表までの間コンサートがありました。表彰式では、優勝者にたくさんの景品と、北海道や鹿児島などへの旅費やホームステイの手配などが行われました。昨年の優勝者パトリックさんは、それで3カ月かけて日本縦断を成し遂げたそうです。



シンガポールでの教育事情

岡山県には、加計学園という学校があります。御野小学校学区に 30 校の加計グループの1つである岡山理科大学や付属中学もありました。そして、この度シンガポール日本人学校と提携交流をすることになりました。それは、加計学園がすでに 10 年も前からグローバルクラスの取り組みをしている先進校だからです。だから、主に中学校のイマージョンを中心とした提携になります。そのあいさつの中で、日本人が英語を苦手としていることを克服し、真の国際人を育てたいという話がありました。しかし、それは英語を話すことが目的ではなく、英語をツールとして自分の考えを伝えるということです。また、一つの見方だけではなく、様々な方向からの考えを理解し、自分の考えをまとめていくということが大切だということでした。日本人が、欧米人と全く同じような行動をするのではなく、時間を守り、相手を気遣う日本人ならではの良さを発揮する国際人になってほしいと思います。

シンガポールの大学が、アジア1位2位だったというニュースがありました。右の写真のシンガポール国立大学と南洋工科大学です。政府が教育期間への投資を増加させ、世界各国から優秀な人材を募る戦略にあるからだそうです。しかし、シンガポールには国立大学が5校しかありません。だから、その学校に入ることができるのは、わずかしかなりません。子どもの進路を早くから心配するのも仕方ありません。シンガポールの人たちは、給料の良い仕事を求めます。法律・医学・金融・工学・経理などの学位が人気になっています。そこで、名門小学校への入学や、その後の振り分けとなる小学校卒業試験への取り組みが熱をおびるわけです。それで、シンガポール教育省は、公立校のレベルを同等にして通いやすい地域の学校に入学できるように指導しています。また、インターナショナル校へのシンガポール人の入学を許可し、激しい教育競争を緩和しようとしています。公立校より格段の費用はかかりますが、欧米系の大学への進学を視野に入れて、インターナショナル校に入れ国際バカロレア (IBDP) 資格を子どもに取得させようと考えている家庭も増えつつあるようです。

